

第4回 国際シンポジウム
日本の技術革新
—理工系における技術史研究—

4th International Symposium
"Technological Innovations in Japan
—Research on the History of Technology by Engineers—"

プログラム
PROGRAM

2008年12月10・11日
10・11 December 2008

第4回国際シンポジウム 「日本の技術革新－理工系における技術史研究－」

主 催:独立行政法人国立科学博物館／文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本の技術革新－経験蓄積と知識基盤化－」総括班

共 催:化学史学会／(社)情報処理学会／(社)電気学会／(社)土木学会／(社)日本化学会
(社)日本機械学会／(社)日本建築学会 (アイウエオ順)

開催日:2008年12月10日(水) シンポジウム／懇親会(希望者のみ)

11日(木) 研究論文発表会

会 場:国立科学博物館(上野)日本館2階講堂および4階大会議室

受 付:同2階講堂前 [10日(水)午前9:00～／11日(木)午前9:30～]

参加費:無 料(懇親会出席者は、会費 3000 円を会場にていただきます。)

開催趣旨

国立科学博物館は、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本の技術革新－経験蓄積と知識基盤化－」の中心機関として、これまでこの分野の調査研究を推進してきました。この領域は、将来の技術革新を支える経験知の宝庫にも拘らず、これまで省みられることの少なかった「20世紀の日本の技術革新経験」を蒐集し、体系化することによって一つの学問領域として発展させていくことを目指しています。

また、近年は理工系の各学協会においても、将来の技術革新は如何にあるべきかを技術の歴史に学ぼうとするなど、技術の歴史を研究する機運が急激に高まりつつあります。加えて、いくつかの有力な理工学協会においては、先人たちの業績や日本の科学技術の世界的な成果や貢献などを評価し、人物や製作物、製造物などの顕彰事業が活発に行われるようになりました。

本シンポジウムは、このような状況を踏まえ、「理工系における技術史研究」は如何にあるべきかをテーマとして開催いたします。特に、各理工学協会での調査研究・顕彰事業の取り組みなどを紹介していただくことによって、相互の理解を深めるとともに、パネルディスカッションにおいてその成果や今後の課題を話し合います。

現在、地球環境問題な今後の技術革新に影響を与える様々な要因が出現しつつあります。また、若者の理科離れなどの状況があり、更には技術革新の経験を如何に次世代に繋いでいくかという問題も起こっています。このような事柄に対して、技術の歴史に学び未来に役立てるには如何にすればよいか、本シンポジウムは理工系の分野を超えた討論がなされることでしょう。

独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター 参事
文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「日本の技術革新－経験蓄積と知識基盤化－」
領域代表 清水 慶一

第4回 国際シンポジウム「日本の技術革新－理工系における技術史研究－」

日 時:2008年12月10日(水)

会 場:国立科学博物館(上野) 日本館2階講堂

受 付:日本館2階講堂前 午前9:00～

総合司会[午前]:内田青蔵(埼玉大学 教授)

[午後]:亀山哲也(財団法人名古屋都市産業振興公社産学連携コーディネーター)

9:30 ~ 9:40	開会挨拶	佐々木正峰(独立行政法人国立科学博物館 館長)
9:40 ~ 10:00	趣旨説明	清水慶一(独立行政法人国立科学博物館産業技術史資料情報センター参事)
10:00 ~ 11:00	基調講演	吉川弘之(独立行政法人産業技術総合研究所 理事長)
11:00 ~ 12:00	基調講演	スティーヴ・アッセルマン(ジョージア工科大学 教授)
13:30 ~ 15:30	<ul style="list-style-type: none"> ●化学史学会・社団法人日本化学会 植村 榮(岡山理科大学 教授) ●社団法人情報処理学会 発田 弘(沖電気工業株式会社 理事) ●社団法人電気学会 鈴木 浩(GEエナジー 技監) ●社団法人土木学会 五十畑 弘(日本大学 教授) ●社団法人日本機械学会 堤 一郎(独立行政法人 職業能力開発総合大学校 研究員) ●社団法人日本建築学会 真鍋恒博(東京理科大学 教授) 	
15:50 ~ 17:20		
17:20 ~ 17:30	シンポジウムのまとめ	笠 覚暁(金沢工業大学 教授)
17:30 ~ 17:40	将来に向けて	清水慶一
18:00 ~ 19:30	懇親会 (会場:国立科学博物館日本館 4階大会議室)	

研究論文発表会

日時:2008年12月11日(木)

受付:国立科学博物館(上野) 日本館2階講堂前 午前9:30~

●会場:日本館2階 講堂

技術革新の構造1		司会: 鎗目 雅
10:00 ~ 10:15	特許情報に基づく化粧品分野の研究開発体制の分析	飯野由里江・廣川佐千男
10:15 ~ 10:30	サービス産業における技術革新と価値創成	竹中 毅・西野成昭・上田完次
10:30 ~ 10:45	国内生産組織における建築の技術発展傾向についての考察	吉田 敏
発表会欠席	大規模プロジェクトによる技術革新の日本の特質に関する一考察	野城智也
10:45 ~ 11:00	質疑応答	

技術革新の構造2		司会: 吉田 敏
11:15 ~ 11:30	技術革新における新素材導入の成功と失敗 台湾の製茶機械を例に	二村 悟・蔡貞瑜
11:30 ~ 11:45	イノベーションの観点からの伝統産業類型化の試み	山下幸裕・中森義輝
11:45 ~ 12:00	サステナビリティへ向けたイノベーション・システムの国際比較分析	鎗目 雅
12:00 ~ 12:15	質疑応答	

技術革新と社会1		司会: 藤谷陽悦
13:15 ~ 13:30	鐘淵紡績洲本支店の工場建物について	平井直樹
13:30 ~ 13:45	ストックとしての既存不適格建築を有効に活用し続けるための方策—N社社の超高層建築を事例として—	舞木俊亮・高山 基
13:45 ~ 14:00	技術革新における漸進性と技能依存性 -1950年代の日本のダム施工技術-	馬淵浩一・今 尚之
14:00 ~ 14:15	質疑応答	

14:20~14:50	説明・報告 特定領域成果報告「日本の技術革新学」の作成へ向けて	清水慶一
-------------	---------------------------------	------

技術革新と社会2		司会: 今 尚之
15:00 ~ 15:15	大正・昭和前期における扇風機の発達	平野 聖・石村眞一
15:15 ~ 15:30	戦前のガス風呂開発の動向	和田菜穂子
15:30 ~ 15:45	カタログからみる家庭用台所の変遷	戸村将之・藤谷陽悦・柳田伸幸ほか
15:45 ~ 16:00	質疑応答	

技術革新と社会3		司会: 平野 聖
16:15 ~ 16:30	「一体絞り型シンク」の開発過程に関する研究(3)	柳田伸幸・藤谷陽悦・内田青蔵ほか
16:30 ~ 16:45	昭和初期における建築雑誌と洋風住宅から見た台所シンク及び設備に関する研究 - 建築雑誌「新建築」と旧マッケンジー邸を事例として -	柳田伸幸・藤谷陽悦・間部智也ほか
16:45 ~ 17:00	明治期から昭和期にかけての家事教科書にみる台所流し台の高さの変遷—立働式の導入から戦後の標準寸法まで—	須崎文代・内田青蔵・藤谷陽悦ほか
17:00 ~ 17:15	福祿石炭ストーブの製品開発について	宇田哲雄
17:15 ~ 17:30	質疑応答	

●会場：日本館4階 大会議室

技術革新の内的発展1		司会：松岡啓介
10:00 ~ 10:15	石炭窯の導入における日本国内の地域的な偏り	宮地英敏
10:15 ~ 10:30	セラミックスの技術革新：窒化ケイ素と自動車技術	岡田 明・亀山哲也・北條純一
10:30 ~ 10:45	エネルギー環境分野の技術潮流～石炭液化技術の経緯と発展～	金城徳幸・宮寺 博・柿本雅明
10:45 ~ 11:00	質疑応答	

技術革新の内的発展2		司会：金城徳幸
11:15 ~ 11:30	アーキテクチャによるコンピュータ技術の系統化の検討	山田昭彦
11:30 ~ 11:45	コンパクトヘリカルシステムのヘリカルコイルにおける技術革新	松岡啓介
11:45 ~ 12:00	戦後日本における鉄鋼製造技術の技術革新－自動車用薄鋼板の技術革新－	黒田光太郎
12:00 ~ 12:15	質疑応答	

技術革新経験の知識基盤化1		司会：中澤靖元
13:15 ~ 13:30	近代日本の技術革新を支えたミュージアム－大阪府立商品陳列所に見る陳列所の一側面－	三宅拓也
13:30 ~ 13:45	技術史の知識基盤表現作成ツール	安孫子一敏・中平勝子・三上喜貴
13:45 ~ 14:00	我が国工学教育揺籃期における卒業論文の使用言語	高橋智恵・松田真希子・上村靖司ほか
14:00 ~ 14:15	質疑応答	

14:20～14:50 ※会場は日本館2階講堂です。
 説明・報告 特定領域成果報告「日本の技術革新学」の作成へ向けて 清水慶一

技術革新経験の知識基盤化2		司会：久保田稔男
15:00 ~ 15:15	手漉き和紙製造用省力化装置	稲葉政満・加藤雅人
15:15 ~ 15:30	秩父宮殿下御成年式服裂地帖及び関連資料(京都工芸繊維大学美術工芸資料館所蔵 AN.2517)から見る二十世紀初頭の染色技術	佐々木良子・生谷吉男・佐々木健
15:30 ~ 15:45	技術者教育におけるロールモデル教材としての技術者伝	中平勝子・三上喜貴
15:45 ~ 16:00	質疑応答	

技術革新経験の知識基盤化3		司会：鈴木 浩
16:15 ~ 16:30	繊維開発の歴史と我が国の繊維産業の技術革新に関する研究	中澤靖元・松島朝秀・朝倉哲郎
16:30 ~ 16:45	日本標準産業分類に見る産業技術史資料調査の現状について	久保田稔男
16:45 ~ 17:00	電気技術分野のオーラルヒストリーの状況と若干の知見	永田宇征・金田輝男・鈴木 浩ほか
17:00 ~ 17:15	戦後の電気関連卓越技術の全収録とネットワーク発信	山本果也・福島宣夫・中野 茂ほか
17:15 ~ 17:30	質疑応答	

注意事項

- ・発表時間：発表時間15分／質疑応答 1セッションごとに15分
- ・発表時間15分にパソコンの接続時間を含みます。